

「北方海域技術研究会 令和3年度 技術研究発表会」を開催しました

寒冷沿岸域チーム 水産土木チーム

2021年12月20日に当研究所講堂において、「北方海域技術研究会 令和3年度 技術研究発表会」（主催：日本技術士会北海道本部北方海域技術研究会、寒地土木研究所）を会場・WEBの併用で開催しました。本研究発表会は、港湾・水産関係技術者の技術力向上をめざして、毎年開催しており、技術者同士の交流の場としても貴重な機会となっています。日本技術士会北海道本部と当研究所は2011年11月に「連携・協力協定」を締結しており、連携行事の一環でもあります。

当研究所寒地水圏研究グループの矢部浩規グループ長の開会挨拶のあと、寒冷沿岸域チームの平野誠治上席研究員より「北方四島交流事業報告 ～国後島訪問記～」と題し、北方領土四島とのいわゆるビザ無し交流により訪問した国後島の港湾施設等の社会インフラと島民の暮らしや文化について、現地での体験や写真を交えた報告がありました。

次に、水産土木チームの稲葉信晴研究員から「漁港内のマナマコ中間育成施設にて優占した新たな食害生物とその対策」と題して、漁港施設でのマナマコの育成について、現地観測に基づいた食害生物とその対策としての食害防止礁の効果に関する新たな知見の報告がありました。

休憩を挟んで、北海学園大学の濱田武士教授から「過疎進行下の漁村政策の課題」と題して、過疎にある漁村振興の政策において大切な要素である人材と産業に着目しつつ、特に若年層を仕事・暮らしの両面から地元（自治体・漁協）が連携して産業と一体で育て

ることの重要性について講演がありました。

続いて、株式会社エコニクスの峰寛明エンジニアリングマネージャーから「赤潮、貝毒対策としての環境改善について - 環境維持保全工法研究会の取組み -」と題して、赤潮・貝毒の対策の基本方針と対策工法の具体例が多数紹介されたほか、最近北海道において甚大な漁業被害があった太平洋沿岸域の赤潮被害の話題にも触れ、広範に渡る赤潮・貝毒対策の海域環境改善技術について講演がありました。

最後は、北方海域技術研究会代表である東海大学の櫻井泉教授の閉会挨拶で発表会の幕を閉じました。

各講演とも興味深い内容であり、会場では活発な質疑が交わされました。今回の研究発表会にはコンサルタント等の民間企業、国土交通省北海道開発局、寒地土木研究所等より会場・WEB各約40名のあわせて約80名の参加がありました。主催者の一員として、ここに記して謝意を表します。

（文責：須藤 賢哉）



写真-1 会場での質疑の様子

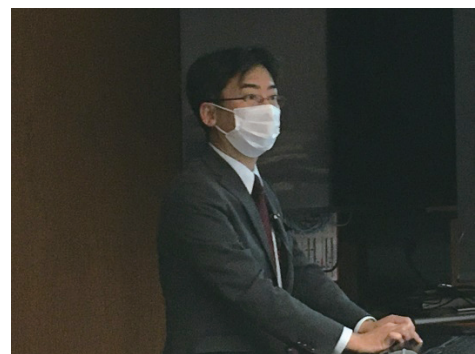


写真-2 講演（上）平野誠治上席（下）濱田武士教授